

平成 31 年 1 月 4 日 市長定例記者会見の要旨

1 年頭に当たって

市長)

今年は、平成最後の年であり、時代が大きく変わる年だと思う。久留米市も市民が望む方向に変わっていかなければならない。どんなに AI が進歩しても、課題の認識は人間にしかできない。課題を見つけ、解決する年にしていきたい。もっとも大きな課題は、災害対応。人的、組織的な措置が必要になる。梅雨時には再び大きな災害が起こる可能性があるとの認識の下、市議会とも十分協議しながら迅速に対応していきたい。

全体としては、弱い立場の人たちが久留米市民でよかった、今年はいいい年だったと思えるような市政を目指していきたい。

年末年始、受験生応援企画ということでシティプラザの学習室を開放したところ、大変利用が多かった。市民のニーズを踏まえた対応がうまくいった例だと思う。シティプラザが市民のものになりつつあるという実感を持った。

記者)

災害対応のための人事は、いつ頃になるのか。

市長)

年度替わりの人事異動でできればと考えている。

記者)

何か具体的な構想はあるのか。

市長)

いくつかのポイントはあある。ハード整備も大切だが、機敏な対応ができる組織体制の整備などソフト面の対応が特に重要だと思う。危機管理官などの専門的な人の配置なのか、危機管理部局といった組織なのか。今後、より良いあり方を議論し検討していく。

記者)

災害対応で何を重要視するのか。

市長)

市民への情報発信と、組織横断的かつ迅速に対応できる有機的な体制。そうしたソフト面の整備が今後ますます重要になってくると考えている。

記者)

(市長がフェイスブックで書き込まれていたと思うが、) 3月に行われる松田聖子さんのコンサートで、市として何か盛り上げることを考えているか。

市長)

松田聖子さんの久留米での公演は、平成最初で最後と聞いている。久留米市出身の著名な歌手の公演が、久留米市の財産であるシティプラザで行われるということはとても誇らしいこと。何かしたいと考えているが、まだ接触もしていないので、こちらの思いが届くかわからない。

記者)

何かイメージはあるのか。

市長)

例えば、「KIMONO プロジェクト」との連携など。具体的なことはこれからだが、久留米やシティプラザを発信する絶好の機会だと考えている。

記者)

中高生がプラザに集まるのはなぜだと思うか。

市長)

もともと(学生が勉強する場所としての)ニーズがあった。そのような形であっても、若い人に施設に親しんでもらうことで、市中心部の魅力の再発見、将来的な活性化につなげたい。

記者)

昨日(1月3日)の地震の対応で、課題はあったか。

市長)

やはり、専門組織をうまく使う必要性和情報発信の重要性を痛感した。